別紙様式第１

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	**インクルーシブ教育プログラム**（令和5年4月1日履修証明制度適用）
プログラムの目的	特別支援学校教諭免許状を持たない者に対する、普通学校・学級に在籍する障害のある子どもの指導ができる教職力量の形成を目的としたプログラム

カリキュラム

	科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考
①	インクルーシブ教育の理論と実践	授業	22.5時間	2	今枝 他	第1ターム	時間外	オンデマンド
					今枝 他	第1ターム	火1・2	柏原キャンパス：対面
②	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	授業	22.5時間	2	庭山・平井・柿	第4ターム	水6・7	天王寺キャンパス：同時双方向
③	通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	授業	22.5時間	2	吉田・平井	第2ターム	月5・6	5限オンデマンド，6限同時双方向

授業又は講習の内容及び方法

科目名・講習名	授業の到達目標・概要	方法
インクルーシブ教育の理論と実践	インクルーシブ教育に関わる国内及び国外の制度の変遷と現状とともに、特別な教育的ニーズのある子どもたちの基本的課題、指導方法について理解を深めることができる。 インクルーシブ教育に関わる国内及び国外の制度の変遷と現状と特別な教育的ニーズのある子どもたちに関わる基本的課題、指導方法等について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。	講義・演習 オムニバス
インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	特別なニーズのある子どもも含めたインクルーシブな教室・学校環境を構築するために、インクルーシブ教育や障害概念の理論的内容について理解し、その上で学校現場における実践に必要なアセスメント、支援計画立案、支援の効果検証について計画することができる。 発達障がいや健康課題のある子どもを中心に、特別なニーズのある子どもを支援していく際に必要となるアセスメント、支援計画立案、支援の効果検証の方法について学ぶ。これらに関する知識に加え、インクルーシブ教育の理念、障害の社会モデル、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンの理解も踏まえた上で、インクルーシブな教室・学校環境を構築するための具体的な方策について検討する。	講義・演習
通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	通常学級において障害のある子どもとない子どもが共に学ぶ学級づくりや授業づくりの現状と課題、必要な合理的配慮がなされすべての子どもが学習に参加することを目指す具体的な方法を理解するとともに、学級づくりや授業づくりに求められる学校内の連携・協働（特別支援学級・保健室）や保護者との関わり・学校経営について、実践を捉え直す視点や教員の役割と専門性を中心に理解を深める。 通常学級において障害のある子どもとない子どもが共に学ぶ学級づくりや授業づくり、学級づくりや授業づくりに求められる学校内の連携・協働（特別支援学級・保健室）や保護者との関わり・学校経営について解説する。事例検討を通じて、受講者自身が多角的な視点をもつことで実践を捉え直し、教員の役割と専門性を態度に表現させる。	講義・演習

総時間数	67.5時間
募集定員	10人程度
受講期間	２年
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科科目等履修生規程第２条に規定する入学資格を有する者
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること（６単位）

別紙様式第１

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	**外国にルーツのある子どもの支援プログラム**（令和5年4月1日履修証明制度適用）
プログラムの目的	外国にルーツのある子どもの支援や教育を行う当事者として、教員が専門性に基づく役割を果たすことができるように、必要な知識やスキル、資質等を培うことを目的とする。

カリキュラム

	科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考
①	外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ	授業	22.5時間	2	臼井	集中（第1ﾀｰﾑ）	木6+集中	（全回オンラインで実施）木6を含む次の日時で実施する。4月12日1～3限、4月17日6限、4月19日1～3限、4月24日6限、4月26日オンデマンド、5月1日6限、5月8日6限、5月15日6限、5月22日6限、5月29日6限、6月5日6限
②	外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ	授業	22.5時間	2	臼井	集中（第3ﾀｰﾑ）	木6+集中	（全回オンラインで実施）木6を含む次の日時で実施する。9月29日6・7限、9月30日6・7限、10月2日6限、10月4日オンデマンド、10月9日6限、10月18日オンデマンド、10月23日6限、10月25日オンデマンド、10月30日6限、11月6日6限、11月13日6限、11月20日6限、11月27日6限
③	外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ	授業	22.5時間	2	臼井	集中（第2ﾀｰﾑ）	木6+集中	（全回オンラインで実施）木6を含む次の日時で実施する。6月12日6限、6月14日オンデマンド、6月19日6・7限、6月26日6限、6月28日オンデマンド、7月3日6限、7月5日オンデマンド、7月10日6限、7月12日オンデマンド、7月17日6限、7月19日1・2限、7月24日6限、7月31日6限

Ⅰ➡Ⅱ➡Ⅲの履修順序に従うこと(＝1年では履修が完了しない)

授業又は講習の内容及び方法

科目名・講習名	授業の到達目標・概要	方法
外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ	＜授業の到達目標＞ 外国にルーツのある子どもの多様性と教育課題を知り、特に子どもの学力や学習言語力の向上に向けた在籍学級での支援の意義と方法を理解する。 具体的には、次の点を目標とする。 ・子どもの実態把握の観点を理解する。 ・教科指導型日本語指導（教科指導と日本語指導を統合した指導）の方法を理解する。 ・教科指導型日本語指導の観点から授業改善の方法を理解する。 ＜授業の概要＞ 外国にルーツのある子どもの教育について、在籍学級で学級担任や教科担任が行う指導や支援の方法を説明する。特に、学力形成を促す教科指導の方法を、指導案検討を通じて解説し、授業づくりの留意点を解説する。	講義・演習
外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ	＜授業の到達目標＞ 外国にルーツのある子どもを取り巻く教育環境の現状と課題を理解し、課題解決の当事者として、学校や教職員がとりうる学校経営や学級経営の改善方策を理解する。 具体的には、次の点を目標とする。 ・外国にルーツのある子どもの教育環境をめぐる課題とその背景要因を理解する。 ・外国にルーツのある子どもの教育における指導関係者の役割と専門性を理解する。 ・言語的・文化的多様性への理解を深める。 ・実践を捉え直す視点や目指す教育の拠り所となる知識を獲得する。 ＜授業の概要＞ 外国にルーツのある子どもの教育をめぐる課題の背景要因や構造を説明する。課題解決のために、多様な指導関係者との協働の中で求められる教員の役割と資質能力について解説し、モノの見方や判断基準の相対化を図る。	講義・演習
外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ	＜授業の到達目標＞ 外国にルーツのある子どもを取り巻く教育環境の充実や改善に向けて、学校内外で他の教職員等と協働して課題解決できる判断力と行動力を培う。 具体的には、次の点を目標とする。 ・教育環境の実態把握に基づき、学校内外の課題を発見する力を培う。 ・課題解決に向けた行動計画を立案・実行・点検し、課題を解決する行動力を培う。 ・課題解決に向けて、他の教職員等と協働する方法と工夫、その多様性を理解する。 ・言語的・文化的多様性に寛容な教育環境の実現に向けた、自己の役割を省察できる。 ＜授業の概要＞ 「外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ」「外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ」の授業を通じて得た知識等をもとに学校改善や授業改善ができるように、ケースメソッドを通じて、受講者それぞれの立場に応じた課題解決力の獲得を図る。	講義・演習

総時間数	67.5時間
募集定員	10人程度
受講期間	２年
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科科目等履修生規程第２条に規定する入学資格を有する者
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること（２単位×３＝６単位）

別紙様式第１

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	**生徒指導プログラム**（令和5年4月1日履修証明制度適用）
プログラムの目的	学校危機や予防も含む生徒指導について体系的に学ぶ。

カリキュラム

	科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考
①	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	授業	22.5時間	2	柿・戸田・牧	集中（第3ターム）	金6・7+集中	集中と第3ターム金6・7限の組み合わせで実施。集中講義予定日（11月15日(土)、3、4、5限オンライン同時双方向で実施）
②	学校危機における援助ニーズ	授業	22.5時間	2	瀧野	第2ターム	水6・7	天王寺キャンパス：ハイブリッド
③	予防的な関わりと協働的援助	授業	22.5時間	2	四辻・山田	第4ターム	火6・7	天王寺キャンパス：同時双方向
					水野・四辻他	第3ターム	火3・4	柏原キャンパス：対面

授業又は講習の内容及び方法

科目名・講習名	授業の到達目標・概要	方法
いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ	いじめ・不登校・問題行動の子どもが示す援助ニーズを理解し，その援助ができ，また，学校おいて予防的な活動が展開できるための、いじめの構造・過程，不登校の現状，そして問題行動の理論的背景について解説する。 いじめは加害側と被害側のみの問題ではなく，観衆・傍観者も含む集団問題である。不登校は，子どもの認知発達段階・家庭要因・学校要因など様々な側面に気を配る必要がある。問題行動は「誰にとって何が問題となるのか」について考えていきながら、表に現れている行動だけでなく，愛着の形成，対人関係の課題，学習の課題等にも留意する。	講義・演習 オムニバス
学校危機における援助ニーズ	学校危機について広く理解をすすめ、学校安全に向けて危機への備え、危機を緩和する準備、危機への対応に関して、支援対象者への援助ニーズと支援の主体になる教職員（支援者）に対する援助ニーズをとらえたトラウマ・インフォームド・ケアのフレームワークのもとでの支援の実践につなげることができる。 学校における危機，その予防と対応について論じながら，トラウマ体験からの回復に向け，援助ニーズの観点から支援と実践のあり方について理解が進むように講義する。三段階の予防の考え方をもとに，危機を予防，回避，影響を緩和するための一次予防，危機時の即時対応についての二次予防，中長期の回復と再発防止に向けた三次予防の理解をすすめる。トラウマ・インフォームド・ケアのフレームワークをもとにして，支援ニーズについて再認識する。	講義・演習
予防的な関わりと協働的援助	学校における予防の概念が理解できる。予防教育についての概念を把握している。予防のための生徒指導，学級経営の手法を理解し実践できる。また予防的な関わりを評価する統計的な手法についても学ぶ。 いじめ，不登校，学校危機をどのように予防するかについて考える。予防的な関わりは，子どもの援助ニーズの大きさにより，1）集中的なケアが必要な子ども，2）個別的で予防的な関わりで援助できる子ども，3）学級や学年全体への予防プログラムに参加することで効果が期待できる子どもの3層構造で捉える。子どもの発達や適応を促進するような予防的・開発的なプログラムを学校現場のニーズを踏まえて実践し，その効果を検証する。そして，こうした予防的な関わりを協働的な援助に結びつけていく。	講義・演習 オムニバス

総時間数	67.5時間
募集定員	10人
受講期間	１年～２年
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科科目等履修生規程第２条に規定する入学資格を有する者
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること（２単位×３＝６単位）

別紙様式第１

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	**障がい・健康課題のある子どもへの協働的援助プログラム** （令和5年4月1日履修証明制度適用）
プログラムの目的	発達障がいや健康課題について理解し、社会環境と個人の関係性を考慮した援助ニーズの視点から、学校現場における協働的援助の実践力を育成するプログラム

カリキュラム

	科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考
①	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	授業	22.5時間	2	庭山・四辻・平井・野田	集中（後期）	集中※	同時双方向、天王寺キャンパス：ハイブリッド
②	メンタルヘルス課題の理解	授業	22.5時間	2	岩切	第1ターム	水6・7	オンデマンド、同時双方向
③	共生社会をめざした協働的援助	授業	22.5時間	2	庭山・野田・高橋味	第1ターム	月6・7	同時双方向

※授業予定日　10月4日(土)3～5限、10月11日(土)4～5限、11月1日(土)2～5限、11月8日(土)3～5限、12月20日(土)3～5限

授業又は講習の内容及び方法

科目名・講習名	授業の到達目標・概要	方法
障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	知的障がい、発達障がい、または健康課題のある子どもについて、その特性を理解し、個々の子どもの特性を考慮した個別支援計画を作成できる。 教職員が知的障がい、発達障がい等の障がいのある子どもや、現代的な健康課題のある子どもを理解し、適切な指導と必要な支援を行うための理論と知識を取り扱う。障がい特性や健康課題のある子どもを支援するために、主として子どもの内的要因に着目し、個別の子どもの援助ニーズに応じた学校教育活動のあらゆる場面を想定した具体的な方策を思考する。	講義・演習 オムニバス
メンタルヘルス課題の理解	子どもの精神保健に関する知識、および実際での対応についての習得。 子どものメンタルヘルス上の課題に関する理論や知識を取り扱う。まずは、子どもの精神発達を理解した上で、予防医学的な観点から日常の精神的健康を保つためのストレスの対処法や対人関係、生活での留意点などを学ぶ。さらに、様々な児童思春期に見られる精神疾患、心身症、発達障がい、虐待・PTSDなどの知識を習得する。そして、学校でしばしば問題となってくる不登校、いじめ、自傷・自殺、問題行動などあらゆる子どもの援助ニーズとも関連づけるとともに、子どもを支える保護者や教職員のメンタルヘルスについても理解を深める。	講義・演習
共生社会をめざした協働的援助	・多様な課題を抱える子ども達を効果的に支援していくために、学校が連携することを求められる関係諸機関について、その主な役割・機能について理解し、学校との連携方針・方法について説明できる。 ・PDCAサイクルに基づく支援を実現するため、関係諸機関との連携を考慮した支援計画の作成、支援の効果検証のためのデータ収集、データに基づくチームとしての意思決定・支援計画の改善方法を習得する。 様々な子どもの個性や多様性を認め、その個性や多様性に応じて必要な支援や援助を行うには、学校が中心的な役割を担いつつ、関係諸機関と連携することが求められる。関係者とのチーム援助に必要な知識や技能を学ぶとともに、多様性を有する子ども達が豊かな人間性を育み生きる力を身に付けていくためのPDCAサイクルに基づく個別の支援や援助方法についても理解を深める。	講義・演習 オムニバス

総時間数	67.5時間
募集定員	10人
受講期間	１年～２年
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科科目等履修生規程第２条に規定する入学資格を有する者
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること（２単位×３＝６単位）

別紙様式第１

履修証明プログラムシラバス

プログラム名称	**学校マネジメントプログラム** （令和6年4月1日履修証明制度適用）
プログラムの目的	複雑化・多様化した諸課題を解決していくため，スクールリーダーとして，学校のマネジメント機能の強化し，学校組織の成長をどうデザインし，開発するのか，構想し，実行できる実務能力の向上を目的としたプログラム（本プログラムの受講には，現職教員経験３年以上が必要）

カリキュラム

	科目名・講習名	授業・講習の別	時間数	単位数	担当予定教員	開講期	曜日・時限	備考
①	スクールリーダーのマネジメント	授業	22.5時間	2	田村・陸奥田	第3ターム	火6・7	天王寺キャンパス：ハイブリッド、オンデマンド
②	チーム学校の実践的展開	授業	22.5時間	2	陸奥田	集中（後期）	集中※	天王寺キャンパス：ハイブリッド、オンデマンド
③	学校組織開発	授業	22.5時間	2	佐々木	第3ターム	月6・7	天王寺キャンパス：同時双方向、オンデマンド

※天王寺キャンパスにて実施。
①11/13木 7限②11/20木 7限③11/27木 7限④⑤12/5金 6.7限⑥⑦12/12金 6.7限⑧⑨12/20土 4.5限
⑩⑪1/10土 4.5限⑫⑬1/24土 4.5限⑭⑮1/30金6.7限

授業又は講習の内容及び方法

科目名・講習名	授業の到達目標・概要	方法
スクールリーダーのマネジメント	学校経営に関する基本的・発展的な知識を習得し，学校を取り巻く現代的な環境について理解する。組織マネジメントの知識・技術に基づき，学校づくりのプロセスを理解し、それらを活用してスクールリーダーとしての組織マネジメントを構想する。 ・ミッション，ヴィジョン，経営戦略，学校評価，財務マネジメント等の知識を獲得する。 ・学校組織のリーダーとしてのマネジメント・マインドを身につける。 ・学校組織内外の関係者との対話と協働によるマネジメント・サイクルを構想できる。 学校経営に必要な基本的・発展的な知識を教授する。学校評価や人事配置，学校経営ヴィジョンと戦略策定の模擬演習により実践的なスキルを磨かせ，教員及び受講者間との対話により考察を深めさせる。	講義・演習
チーム学校の実践的展開	・「チーム学校」のあるべき姿を理解し、実現するための改善方策について構想することができる。 ・「チーム学校」答申の背景、理念等についての認識を深める。 ・答申に基づいて、専門スタッフや地域等との連携・分担・協働体制等を見直し、「チーム学校」を実現する実習校園の具体的改善方策案を構想・提案することができる。 ・「チーム学校」の考え方を基に「開かれた教育課程」実現の諸相として、ファシリテーションコースとの合同授業において、学校と地域が協働して単元案を構想する模擬体験を行い，学校の役割を考察することができる。 「チーム学校」答申をもとにした組織運営体制づくりの経験を基に事例を教授し，理論と実践が乖離しないよう省察を促す。事例検討，演習、対話等により考察を深め，実践的なスキル向上を図る。	講義・演習
学校組織開発	・学校組織開発のためのマネジメントとリーダーシップについての理解を深める。 ・学校組織を個業型から協働型に変革するためのさまざまな理論や事例についての理解を深める。 ・教員の自律性と学校の組織性を両立させるための方策を提案することができる。 ・学校の組織構造の理解と開発への意欲を高め、地域の学校を対象とする組織開発戦略を構想することができる。 いろいろな教育論、学校論、組織論、リーダー論を取り上げて、理解を深める。	講義・演習

総時間数	67.5時間
募集定員	10人
受講期間	１年～２年
履修資格	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科科目等履修生規程第２条に規定する入学資格を有する者,かつ３年以上の勤務経験を有する現職教員問う（指導主事を含む。）
修了要件	受講期間内に全てのプログラム科目の単位を修得すること（２単位×３＝６単位）